

大谷大学短期大学部 自己点検・評価報告書
2014年度

仏教科

幼児教育保育科

| | |
|---|--------------------------------|
| 基準：4-1、4-2 | < 評定 > S < 自己点検・評価委員会評定 > S |
| ※ 2013 年度の目標①を受けて | |
| 継続 ・ 完了 ・ ほかの目標と集約（集約した目標番号【 】） ・ 取り下げ | |
| 1. 【2014 年度の目標等】 | |
| [目標] | |
| 卒業研究の作成を 2 年間の学修の集大成として位置づけ、さらにきめ細やかな指導体制の充実を図る。 | |
| [達成基準] | |
| 卒業研究提出率 100%を達成する。 | |
| [行動計画] | |
| 2013 年度の行動計画を 2014 年度も引き続き実施するが、特に以下の 2 点について新たに取り組む。 | |
| ① 卒業研究題目の検討と確認 | |
| 2013 年度以前に提出された学生の卒業研究題目の状況と傾向を確認する。また学科開講科目それぞれの授業目標・講義計画を確認し、そこに提示している学修内容と、学生に提示する卒業研究題目が有機的に連携されていることが明確になるよう、卒業研究題目の再検討を行う。必要に応じて新たな題目を提示する。 | |
| ② 卒業研究の作成の進捗に応じた発表会等の実施 | |
| 9 月実施の卒業研究中間発表会に加え、10 月、11 月のいずれかの時期に、適宜発表の機会を設ける。実施の時期、形態については、両コースそれぞれの学生の状況をふまえて検討する。指導教員・副指導教員が学生に指導・助言を行ううえで、学生が必要とする時に指導を受けられる体制をさらに充実させる。 | |
| 2. 【2014 年度の達成状況報告】 | |
| ① 卒業研究題目決定に向けて、所属教員会議を実施し、学生に提示する卒業研究題目を検討・変更を行った。またそれぞれの題目が内容とする課題について、指導教員から詳細に説明を行い、これに基づき、指導教員・担当教員を交えての題目決定相談会を実施した。（資料参照） | |
| ② 9 月 16 日～17 日に湖西キャンパスセミナーハウスにおいて、卒業研究中間発表会を一泊研修会として実施。学生と所属教員が参加。（資料参照） | |
| また、卒業研究提出期限 1 ヶ月前の 10 月 30 日 4・5 限に学内において第 2 回目の中間発表会を実施。この発表会には 2 年次学生だけではなく、1 年次学生も参加する形態をとった。（資料参照） | |
| 3. 【点検・評価】 | |
| [効果が上がっている事項] | |
| ① 題目決定までの学生指導において、学生個々の課題に即した題目決定を行うことができ、論文の作成指導を適切に行うことができた。 | |
| ② 2 回の発表会を実施することによって、題目決定から卒業研究提出までの学生の一貫した取り組みが実現できた。また教員による論文作成指導もきめ細やかに行うことができた。これによって論文提出 100%、留年率 0%を実現できた。 | |

- ③ 10月30日実施の2回目の中間発表会に、1年次学生が参加したが、これによって1年次学生が卒業研究作成の取り組みの実際に触れることができ、2年次での卒業研究作成への取り組みへの意識を喚起できた。また1年次の授業における学修の大切さを改めて再確認させることができた。

[改善すべき事項]

特になし

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- ① 卒業研究題目決定に関わる学生配付資料
- ② 9月実施の第1回中間発表会実施の学生案内文
- ③ 10月実施の第2回中間発表会実施の学生案内文

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

よく練られた計画をきちんと実行し想定した目標を達成している。今後も継続されることを望む。

| | |
|--|--------------------------------|
| 基準：5 | < 評定 > C < 自己点検・評価委員会評定 > B |
| ※ 2013 年度の目標②を受けて | |
| 継続 ・ 完了 ・ ほかの目標と集約（集約した目標番号【 】） ・ 取り下げ | |
| 1. 【2014 年度の目標等】 | |
| [目標] | |
| 定員の充足 | |
| [達成基準] | |
| 募集定員の充足。2014 年度入学者 20 名を目標とするが、全収容定員の 80%以上を確保する。 | |
| [行動計画] | |
| 2013 年度の行動計画を 2014 年度も引き続き実施するが、特に以下の点について大学執行部・入学センターの協力を仰ぎながら取り組んでいく。 | |
| ①2013 年度の学生募集の取り組みの見直し。 従来の取り組みについて、見直しをはかるべき点、新たに加えるべき取り組みの有無を明確にする。 | |
| ②仏教科の教育方針と学生の学修の状況をわかりやすく示すことのできる説明資料、広報資料を学科として検討し作成する。 | |
| 2. 【2014 年度の達成状況報告】 | |
| ① 大学の学生募集の方針について入学センターと連携し、オープンキャンパスを訪問した入学希望学科未定の志願者・ご父母兄弟との面談を実施。仏教科の教育指導体制について説明。 夏季八十講をはじめ、所属教員が講師として招聘された研修会・講演会等の機会を利用して、仏教科の教育体制を広報した。 | |
| ② 仏教科独自の広報資料の検討を行ったが、作成・配布には至らなかった。 | |
| ③ 2015 年度入学者は 11 名であり、達成基準の実現には至らなかった。 | |
| 3. 【点検・評価】 | |
| [効果が上がっている事項] | |
| ① 入学希望学科未定の志願者・ご父母兄弟との面談により、自己推薦入試から 1 名の志願者を確保した。 | |
| ② 入学センターの学生募集の方針により、2014 年度前半期の高校訪問は実施できなかった。また入学センターと連携して、2014 年度後半期の高校訪問を計画したが、実施にいたらなかった。 | |
| [改善すべき事項] | |
| ① 大学執行部・入学センターとの連携を密にして、高校訪問を中心とした広報活動を実施していく。 | |
| ② 学生募集において、仏教科の教育指導体制をわかりやすく示す資料を作成し検討する。 | |
| 4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること | |
| なし | |

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

行動計画の一部が実行されなかったということは問題であるが、広報への努力は認められるので評価を B とした。

| | |
|---|--------------------------------|
| 基準：6 | < 評定 > B < 自己点検・評価委員会評定 > B |
| ※ 2013 年度の目標①を受けて | |
| 継続 ・ 完了 ・ ほかの目標と集約（集約した目標番号【 】） ・ 取り下げ | |
| 1. 【2014 年度の目標等】 | |
| [目標]公務員を希望する学生に対する支援として公務員試験対策を充実させる | |
| 3 ヶ年計画の 3 年目 | |
| ① 学生が、自分にあった進路就職先を選択できる環境を整える。 ② 現在の公立正職員合格率（合格者/受験者）25%（2013 年度）から、目標値として 50%を目指したい。 | |
| ※公立就職率（就職者/希望者）2013 年度実績 75%（非常勤を含む） | |
| [達成基準] | |
| 行動計画に挙げた内容を実行した結果、合格率 50%に達した場合、目標達成できたものと判断する。 | |
| [行動計画] | |
| ① 公務員試験対策として模擬試験および対策講座（4 月・11 月）への参加を促す。公務員を希望する学生に対しては、早い時期からの対策が有効であるので意識付け等、支援していく。 ② 「進路・就職ガイダンス」（キャリアセンター主催）の日程や内容について、より、学生の実情にあったものとなるよう、キャリアセンターと連携をとりながら進めていく。 | |
| 2. 【2014 年度の達成状況報告】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015 年 3 月 31 日現在の公立正職員合格率（合格者/受験者）は 25%、公立就職率（就職者/希望者）としては 33%である。公立正職員合格率は昨年度と同じ 25%に留まったが、公立就職率としては 42 ポイント下降した。 ・ 公立就職率の下降の原因としては、最後まで公立希望の学生が少なかったことによる。昨年度は、1 次試験に合格が得られなくとも一旦は非常勤もしくは臨時として公立園への就職を選択し、次年度に向けて正職員を目指していく傾向が強かったが、今年度はそういった数が減少したためであるといえる。 ・ 2012 年からの 3 ヶ年計画として 3 年目。結果としては、昨年度に続き達成基準として示した合格率 50%には至らなかった。ただ、合格率としてみた場合 25%に留まってはいるが、この他にも、公立保育士試験に合格したが最終的に私立の園を希望し正職員に内定した学生がいること、また、公立試験に合格しなかった学生のほとんどが私立の正職員に内定している点は評価したい。 ・ 達成基準として合格率を上げる場合、やはり 50%の線は目標として妥当であるが、年度により公立採用状況の変化があることや希望者数の変動があり、やむをえない面があることから、達成基準を数値で上げることの難しさが残る。 | |

| |
|---|
| 3. 【点検・評価】 |
| [効果が上がっている事項] |
| <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画②については、キャリアセンターとの連携を密にして周知の徹底を図り、5月実施の1年生向けガイダンスでは78名が参加した。学科教員との振り返りの時間を設定することで理解を深めることができた。また、卒業生（公立園、私立園への就職者）と在学生との少人数グループによる交流の機会を持ち、就職試験に向けての取り組みや保育者としての仕事への具体的なイメージを持つことができています。 |
| [改善すべき事項] |
| <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画①については、4月実施の公立保育士試験対策模擬試験の受験者17人に対して、来年度に向けての11月実施の同試験では受験者7名と、少人数にとどまった。早い時期からの対策が有効であるのでガイダンスへの参加とともに意識付けを行っていく必要がある。また、公立志望者以外にも力試しとして有効であることを周知し、対策講座への参加も含めて、昨年度に引き続き呼びかけを行っていく。 ・公務員試験対策について特化した形で2012年度から目標を立ててきたのは、これまで重点を置くことがあまりなかったためであるが、達成状況の報告でもふれているように、年度による採用状況の変化や希望者数の変動が大きいことから、来年度の目標については見直しを行うことが適切である。 ・今後も、公務員を志望する学生に対する支援を継続して行うことはもちろん、進路・就職支援の原点に立ち返り、学生が自分にあった進路・就職先を選択できる環境を整えるため、実情に即した具体的な行動計画を立て、実行すべきであるとの考えに至った。 |
| 4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること |
| <p>会議資料</p> <p>ガイダンス資料</p> |

| |
|---|
| <自己点検・評価委員会使用欄> |
| <p><所見></p> <p>「進路・就職ガイダンス」の時機を得た複数回の実施と、学科教員による振り返り指導、キャリアセンターとの連絡会によるきめ細かい打ち合わせ、卒業生との交流会等が、進路就職情報の周知を図るために有効に働き、評価できる。学生の進路志望が私立園に向いていることや公立園の採用人数が年度により不確かであることもあり、公立正職員合格率50%の達成は難しい面があるが、早い時期からの公務員試験対策は重要であり、ガイダンス、模擬試験や対策講座への参加等、引き続き全学生に意識付けを強化し、合格率を上げる努力が必要である。</p> |

| | |
|---|----------------------------|
| 基準：4 | <評定> C <自己点検・評価委員会評定> C |
| ※ 2013 年度の目標③を受けて | |
| 継続・完了 ・ ほかの目標と集約（集約した目標番号【 】） ・ 取り下げ | |
| 1. 【2014 年度の目標等】 | |
| [目標] カリキュラムの充実(学習意欲の喚起と学習力のアップをはかるため) | |
| 短期大学部 2 年間のシーケンスを踏まえて、学習意欲と学習力のアップを図る。 | |
| [達成基準] | |
| ① 学科全体の GPA が 2013 年度より向上していること。 ② 授業評価アンケートの 2013 年度評価（前期 4.7、後期 4.6）を維持すること。 ③ 留年率が 2013 年度(8.8%)より減少していること。 | |
| [行動計画] 学生のレポート・「卒業研究」等に質の向上が見られるように指導する。 | |
| ① 「学びの発見」の振り返りを行い、レポートは個別に添削指導を行う。 ② 各教科のレポート・「卒業研究」等の評価に関する意見交換を行う。 ③ 各教科間の連携を図るため、各教科担当者間の連絡調整を実施する。 ④ 教員の授業力の向上を図るべく相互の授業参観を実施する。 | |
| 2. 【2014 年度の達成状況報告】 | |
| ① 2013(後期)GPA は、3.00(11.8%),2.50～2.99(34.8%),2.00～2.49(33.5%),1.50～1.99(13.7%),1.00～1.49(1.9%),1.00 未満(6.2%)。2014(後期)は、3.50(1.2%),3.00(10.1%),2.50～2.99(36.7%),2.00～2.49(34.3%),1.50～1.99(11.8%),1.00～1.49(4.1%),1.00 未満(1.8%)。 ② 2013 授業評価の総合評価は、前期 4.7、後期 4.6。2014 総合評価は、前期 4.4、後期 4.3。 ③ 留年率は、2013 年度は 8.8%。2014 年度は 3.5%。 | |
| 3. 【点検・評価】 | |
| [効果が上がっている事項] | |
| ① 「学びの発見」の振り返りをレポートで提出してもらい、2015 年度に反映させることができた。 | |
| [改善すべき事項] | |
| 各科目間のレポート及び卒業研究の評価に関する意見交換、及び各関連科目(担当者)間の連絡調整は実施できなかつたので、次年度の継続事項とする。 | |
| 4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること | |
| 「学びの発見」振り返りシート | |

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

今年度は「学びの発見」の振り返りを行い、2015年度の授業内容充実が図られたことは評価できる。留年率が減少した点も評価できるが、なぜ減少したのかについて分析が必要である。また、達成基準である授業評価アンケートの評価が若干低下している点を考えると、学習意欲と学習力の向上を図るために、学科教員間のさらなる連絡、調整、相談を適切に行う必要がある。行動計画に示されている、レポートや卒業研究の評価についての意見交換、学科教員による相互の授業参観により授業改善を目指すこと等、今後の取り組みを充実していくことが望まれる。

| | |
|--|-----------------------|
| 基準：4-3、8 | < 評定 > A |
| | < 自己点検・評価委員会評定 > A |
| ※ 2013 年度の目標④を受けて | |
| 継続 ・ 完了 ・ ほかの目標と集約（集約した目標番号【 】） ・ 取り下げ | |
| 1. 【2014 年度の目標等】 | |
| [目標]地域への貢献 | |
| 3 カ年計画の 3 年目 | |
| ① 地域の子育て支援活動へ継続的に取り組み、拡充を図る ② 地域貢献と同時に、研究及び学びの場としての役割を明確にする | |
| [達成基準] | |
| ① 「すくすく赤ちゃん広場」の継続 ② 北区内（紫明学区）での子育て支援活動の実施 ③ リレー講座の試行及び修正 | |
| [行動計画] | |
| ① 「すくすく赤ちゃん広場」の継続（2014 年度は 10 月実施予定） ② 北区内における子育て支援活動拡充のため、拠点化を推進する ③ リレー講座の学内での実施を検討・試行する ④ 施設・設備についての継続的な検討を実施し、文書化した内容を再検討していく | |
| 2. 【2014 年度の達成状況報告】 | |
| ① すくすく赤ちゃん広場」を 10 月 24 日（金）午前 10 時～11 時 30 分実施した。 参加者は、親子さん 91 組 184 名（スタッフは学生 76 名を含めて 141 名）と大盛況であった。 | |
| ②北区と連携して、「赤ちゃんにこちゃんサロン」4 回実施 1 回目は 3 月 4 日紫明センターにて 2 回目 7 月 14 日紫明センターにて 3 回目 12 月 22 日北文化会館和室にて 4 回目は 2015 年 3 月 2 日日本学 4 号館多目的室にて * 4 回目にはじめて本学で実施したが、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された空間であることから大変好評であった。参加者は 13 組の親子さんとスタッフ 16 名（うち学生 3 名、大学関係者 7 名）と盛況であり、和やかな雰囲気楽しんでいただけた。 * 北区から、今後の取り組みの連携の希望が出ている。 | |
| ③大谷幼稚園にてリレー講座 ・ 本学教員が 7 回実施する。 | |
| 第 1 回 「絵本の読み聞かせと子育て」 | 講師：亀田十未代 参加者：保護者 15 名 |
| 第 2 回 「親子でダンスや体操を楽しもう」 | 講師：矢野永吏子 参加者：親子 29 組 |
| 第 3 回 「切って、折って、貼りあわせて…～紙でつくる おしゃれな小物～」 | 講師：太田智子 参加者：保護者 16 名 |

第4回 「親子で木琴体験～ミニ・コンサートと合奏～」

講師：岡村明日香 参加者：親子 36組

第5回 「リトミック～親子でリズム運動を楽しもう～」

講師：亀田十未代・岡村明日香・矢野永吏子 参加者：親子 29組

第6回 「とびだす絵本をつくろう！」

講師：太田智子 参加者：14名

第7回 「エアロビクスでいい汗かこう！」

講師：矢野永吏子 参加者：7名

・藤棚祭りへの参加

2014年7月16日(水) 10:00～12:00 主催：大谷幼稚園保護者会

参加者 幼稚園：園児 164名 教員 18名 保護者 24名

大学：学生 65名 教員 7名

④施設・設備については、試案作りと学内地域貢献事業を調整中である。

3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

効果が上がっている事項

目標①について、紫明学区の子育て支援「赤ちゃんにこちゃんサロン」の着実な実施を通して、北区からさらに連携の依頼が来ており、継続発展の方向性が見えてきた。特に、本学での開催は評価も高く期待感を持って受け止められている。これは、「すくすく赤ちゃん広場」を継続的に取り組んできたという信頼関係の結果でもあると考える。

目標②について、保護者支援の視点から見た保育者の役割について、今年度も年度末のレポートでほとんどの学生が「すくすく赤ちゃん広場」から学んだ意義について記述されており、この経験を通して学生たちにとって大きな学習効果が見られたことがわかった。

さらに今年度は「藤棚祭り」への参加もあり、幼稚園のイベントの雰囲気も経験することができた。実習生とは違う立場で園児達と接することは、学生にとって、子どもたちとの多様な関係の作り方を学ぶ良い機会になった。

[改善すべき事項]

- ・行動計画①②のについては、さらに充実・発展させていく。
- ・行動計画③の学内におけるリレー講座については、学内状況を考慮してじっくり検討していくこととし、大谷幼稚園で実施したような企画を実習園などにも働きかけていく。
- ・行動計画④については、今後は他学科、関係部署と連携を密にしながら、実現していく。
- ・目標②について
学生が子育てボランティア等、積極的に地域と繋がる機会を提供したいが、短期大学部は授業の時間割が詰まっていて調整が難しい。そんな中、さらに積極的に、継続的に学ぶ機会を作るためには、学科としてどのような援助ができるかを検討していきたい。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- ①「すくすく赤ちゃん広場」開催要項（打ち合わせ用）とまとめ冊子
- ②紫明学区子育てサロンの案内ビラと報告書
- ③大谷幼稚園保護者向け講座と藤棚祭りの案内ビラ

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

北区地域子育て支援ステーション事業への参画は、地域と大学との連携を深めること、学生の子育てに対する意識の向上、学習効果の向上につながった点が評価できる。中でも、本学における「すくすく赤ちゃん広場」は、4年間継続的に実施され、充実した取り組みである。また、紫明学区の子育て支援事業と連携として4回実施された「赤ちゃんにこちゃんサロン」は、環境設定や各回の内容が工夫され、今後の連携が期待されていることから、子育て支援事業における本学の位置付けが明確になった。これらの事業への参画を研究や学びの場として生かしていくことが今後の課題である。大谷幼稚園における「リレー講座」では、子ども参加も視野に入れ、専門知識や経験を生かした内容で実施できていて評価できる。学内における実施についても今後の課題として検討する必要がある。